
シンポジウム 5

発達障害者の就労から就労継続へのシームレスな支援の可能性

●シンポジウムの趣旨

発達障害を持ちながら働く労働者の数は年々増加している。最近では、就学中に発達障害の診断を受け、自分の障害をオープンにして就職活動をする者や、いったん就職したもののうまく適応できずに退社したが就労移行支援事業を経て再就職する者など、発達障害者の就労支援も多様化している。また、障害者の法定雇用率の引き上げや、労働人口の減少を背景に、障害を持つ人材の採用に興味をもつ企業が増加している。しかしながら、当事者と企業のマッチングの機会や情報が乏しいために、就職を希望するものの就職のイメージができずに具体的な就職活動につながらない例や、就職後に企業の対応と当事者の特性が合わずに退職を余儀なくされる例も多く認められる。そのようなミスマッチを克服するために、東京多摩地区では、企業と当事者のマッチングの機会や情報を提供する取り組みが始まっている。

企業においては、一般採用で就職した労働者が、仕事に適応できずにうつ病に罹患し、治療経過の中で、仕事に適応できなかった本人の背景に発達障害という診断がついたり、産業医がそのことを疑ったりして、産業保健職が、発達障害者の特性を踏まえて職場環境の調整などで支援をするケースも増加している。

このような現状を踏まえて、本シンポジウムでは、小川浩氏には、東京多摩地区で実施した発達障害者やグレーゾーンと言われる方々を対象としてマッチングイベントや就労支援におけるジョブコーチの役割について、千田若菜氏には医療機関における発達障害者の就労支援について、工藤陽介氏には、大学における発達障害者の就労支援について、永田昌子氏には、企業における発達障害者の就労支援の実際やその研究についてお話をいただき、発達障害者の就労から就労継続へのシームレスな支援の可能性をテーマに、学校、企業、専門職の連携の在り方について議論する。